

「不適応行動への対応」

# 「行動」を見取る！ — 具体的な支援をめざして —

特別支援教育コーディネーター

宮本 加代子

miyamoto.kayoko@post.ibk.ed.jp

# 4カ月が過ぎましたね！

## コミュニケーション

- 子ども達と：いいところを見つけましたか？
- 先輩や同僚と：仕事以外の話もしていますか？
- 保護者と：「キャッチボール」していますか？

## キャリアアップ

- 学級経営：楽しんでいますか？
- 授業：子どもも先生も成長！
- 校務分掌：発言（質問）できましたか？

# さて。どう答えますか？

- ① 「自閉症」って、人と会話ができなくて、黙ったりうつむいたりしている子でしょ？
- ② あの子、なんか服装がだらしないよね。「発達障害」の子に多いんだって？
- ③ これまでの経験を全然学習できてないから、あの「学習障害」ってやつだよね？

# 私たちのそばにいる子どもたち

- 知的障害
- 肢体不自由
- 視覚障害
- 聴覚障害
- 病弱

発達障害

(LD・ADHD・高機能自閉症)

自閉性障害

不登校

重複障害

緘黙

「障害」はたしかに困難さの原因になっているが、  
困難さは、個人や周囲の環境等によって異なる。  
困難さもあるが、得意とする活動もある。

# 「自閉症」（「自閉性障害」）とは

社会的相互作用 の質的障害	コミュニケーション 行動の質的障害	興味関心の限定 固執・反復的行動
例：人の仕草や目 線の動き、雰囲気 から何を察すれ ばよいのかが分 からない	例：言葉の意味や 使い方が分から ないので、指示を した相手の言葉を 復唱する	例：自分の決まっ た作業のやり方 があり、一部でも それを変えると混 乱してしまう

※診断が同じ「自閉症」でも 個人差があるので  
全ての人が同じ行動をするわけではない

# 「できること」と「難しいこと」を 「具体的に」説明してください

- ① 「自閉症」
- ② 「発達障害」
- ③ 「学習障害」

# なぜ、その「行動」をするのか？

- ①映画館では、いつも通路側に座る。
- ②右肩にリュックをかつぐ。
- ③待ち合わせに、いつもギリギリで到着する。
- ④いつも、何か、忘れ物をする。
- ⑤好きな人が近づくと、その人の髪をひっぱる。

その「行動」をすると、自分にとってよいこと  
がある、という期待や予想があるから。

# その「行動」の機能に注目です！

- ①通路側に座れば、すぐに移動できる。
- ②左肩が痛いので、右は痛みもなくて楽だから。
- ③ギリギリまで寝ても、いつも間に合っちゃう。
- ④借りて済むなら、荷物も減ってラッキー。
- ⑤髪をひっぱると、好きな人が振り向いてくれる。

**強化**

その「行動」をして、自分にとってよいことが起これば、**今後**もその「行動」をします。

# 大切なことは 社会的に適切かどうか

↓ 変わるとよい行動とは？  
社会生活で困らない

- ①映画館では、いつも通路側に座る
- ②右肩にリュックをかつぐ
- ③待ち合わせに、いつもギリギリで到着する
- ④いつも、何か、忘れ物をする
- ⑤好きな人が近づくと、その人の髪をひっぱる

**適応行動 = 社会で生活しやすくなる・楽しく生きる**

☆ 支援を変える(ABC分析・強化随伴性の検討)

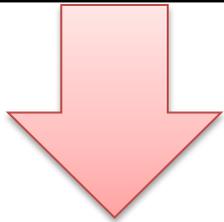
☆ 適切な行動に替える(代替行動)

# 子どもたちの気がかりな「行動」

- 授業中、席にずっと座っているのが難しい
- 上履きをよく忘れる
- 指示されたことを覚えられない
- 教室移動に非常に時間がかかる
- 他人の眼鏡や持ち物を取ったり投げたりする
  - 事例①
- 分からない問題で唸りながら地団太を踏む
  - 事例②
- 提示したプリントの問題を解かない
  - 事例③

# その「行動」の何が問題なのか

行動問題	問題行動	行動障害
behavior problem	problem behavior	behavior disorder
行動上の問題そのもの。本人の特性と環境側の特性の相互作用によって生じていることが多い。	行動が、本人や周囲の人にとって問題であることを強調する側面と、その人自身に問題があることを示唆。	医療の領域で使用される語 ex: 強度行動障害



## 「チャレンジング行動」 challenging behavior

その行動を示している本人は、**そうせざるを得ない環境に置かれたため**、本人にとってふさわしくない環境との相互作用が不調和な結果として、「行動問題」をしてしまう。その行動は支援者へのチャレンジであり、本人が、**その「行動問題」を起こさなくても済むような環境を作り出す必要がある**ことを意味している。

※ このスライドは(園山, 2006)を基に作成

# 「不調和」＝「行動問題」の諸要因

全体的アセスメント	行動問題に焦点化したアセスメント
<p><b>(1)本人や障害の特性</b> 好き嫌い、得意・不得意、体調の変化 生活パターン、行動傾向、認知の能力 (感覚・意味理解の程度など)</p>	<p><b>(1)一般的アセスメント</b> 頻度、強さ、持続時間、本人や周囲 の人に対する影響度、行動が起きや すい場面</p>
<p><b>(2)環境の特性</b> 好きな物が周囲に散らばっている、分 からない言葉で説明を続ける人がい る、苦手な課題が続けて出される等</p>	<p><b>(2)機能的アセスメント</b> 行動が起きる時と起きない時の、そ れぞれに関係する<b>環境要因</b>を特定し、 本人の特性と環境の調和を見出す</p>

このほか

保護者や関係者から聞き取りしたことや  
成育歴や生活史も重要な情報となる

# A B C 分析（三項随伴性）

**A**

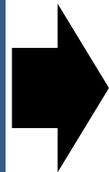
(antecedents)

**先行事象**

他の物に混ざって置いてある

やり方が分からない課題

関わりが少ない



**B**

(behaviors)

**行 動**

物が見えない

先生を叩く

消しゴムを投げつける



**C**

(consequence)

**結 果**

持って行くのを忘れる

課題をやらずに済む

相手が振り向く

# アプローチ

## 先行事象へのアプローチ

見える所に置いておく、または他の物と分けて置くと見えるので忘れずに持って行くことができる

## 行動へのアプローチ

分からない問題の時に叩こうとしたら、「教えて」と言うように教える→教えてもらい問題が解ける

## 結果へのアプローチ

消しゴムを投げ付けられた時は振り向かない  
名前を呼ばれたり、肩を優しく叩いたら振り向く

# 事例① 眼鏡を取って笑う

- 知的障害養護学校小学部1年生 A男
- 入学前は、障害児対象の幼稚園通園
- 家族は、両親と妹
- 発語は「あー」「うー」など
- 欲しい時は、手の平を重ねて相手に差し出す
- 妹を突き飛ばし、母にべったり寄り添う
- 思い通りにならないと襟を噛む
- 園の柵を飛び越える、高い場所を好む

# 事例① A B C 分析

**A**

(antecedents)

**先行事象**

先生が他の子  
と遊んでいる

先生が連絡帳  
を書いている

**B**

(behaviors)

**行 動**

先生の眼鏡を  
取る

先生の眼鏡を  
取る

**C**

(consequence)

**結 果**

先生が他の子と  
離れて、A男を  
見て叱る

連絡帳を書くの  
を止めて先生が  
振り向く

# 事例① やりがちなアプローチ

## 先行事象へのアプローチ

A男から見える所では連絡帳を書かない

→連絡帳を書くとき以外も、サッと眼鏡を取った

## 行動へのアプローチ

A男が眼鏡を取っても、無視をする

→眼鏡をさらに遠くへ投げたり、服をひっぱった

## 結果へのアプローチ

眼鏡を取ったことを叱らずに黙ってかけ直す

→かけ直した途端、眼鏡を取り、遠くに投げた

# 事例① アプローチ

## 先行事象へのアプローチ

A男とかかわる時間を作る

A男と一対一でかかわる

## 行動へのアプローチ

A男が手を伸ばして、遊ぼうと要求

→眼鏡をかけたままでも気にならなくなった

## 結果へのアプローチ

手を伸ばして要求できたことを誉める

→その次も、手を伸ばして遊びを要求した



眼鏡を  
取る  
行動が  
減った

## 事例② 間違いを指摘すると怒る

- 知的障害特別支援学校中学部2年生 B男
- 地元小学校に4年生まで在籍
- 家族は両親と本人(当時は父単身赴任で母と二人暮らし)
- 自発語は「ありがとう」や「ください」「終わりました」  
場面に合わないときにもその語を言うことがある
- 細かい作業が得意で、やり方が分かれば最後まで一人で取り組むことができる
- 休み時間は席に座っているか次の教室へ移動
- 日課が変わったと伝えると怒る、泣くこともある

# 事例② ABC分析

A

(antecedents)

先行事象

分からない課題

空欄の指摘

間違いの指摘



B

(behaviors)

行動

空欄で提出

怒る

唸りながら強く地  
団駄踏む



C

(consequence)

結果

再度解くように  
言われる

違う課題がもら  
える

やらなくて済む

# 事例② やりがちなアプローチ

## 先行事象へのアプローチ

「これは間違いだね」を「ここ、やり直してごらん」  
言い換えても、分からないことには変わらない

## 行動へのアプローチ

問題を音読して、詳しく説明する

→すでに分からないので、説明を聞こうとしない

## 結果へのアプローチ

分からない課題を避けてできる課題だけ提示

→本人はできるので楽だが、学習にはならない

# 事例② アプローチ

## 先行事象へのアプローチ

未定着の問題と既習問題を混ぜて出題する  
→未定着の問題が空欄で、指導課題が見える

## 行動へのアプローチ

空欄や間違いの問いで  
『教えて』と言うことを教える



正答を教えて  
もらい、それを  
覚えて間違い  
が減る

## 結果へのアプローチ

正答を書き、プリントが終了。賞賛され笑顔。  
→未定着問題を学習し、学習進度が高まる

# 事例③ プリントに書かない

- 高等学校 英語の授業におけるあるグループ
- 構成は10名(男子2名, 女子8名)
- 学習の大きな流れとしては
  - ①教科書の本文を写す
  - ②CDを聞く, CDまたは教師の後に続けて音読
  - ③新出単語を調べる
  - ④重要表現を基に教師と一緒に訳す, 板書を写す
- ノート提出やプリントの回収を行っている
- ノート提出率80%
- プリントは全員提出するが, 記入は60%程度

# 事例③ A B C 分析

**A**

(antecedents)

**先行事象**

分からない課題

空欄の指摘

「書こう」と呼びかける



**B**

(behaviors)

**行 動**

空欄で提出

「はい」と返事

「はい」と返事



**C**

(consequence)

**結 果**

説明を受けた箇所だけは書く

空欄は埋めない

書かずに提出

# 事例③ やりがちなアプローチ

## 先行事象へのアプローチ

「この問題はね」と一問一問説明すれば書き込むが、自分から質問しようと思わず、教師待ちの状態

## 行動へのアプローチ

指示すれば「はい」と返事をするが、書く行動につながらない→教師にも友達にも質問しない

## 結果へのアプローチ

書かれていないことが分かるのが授業終了時  
→プリントを提出したことで生徒は満足

# 事例③ アプローチ

## 先行事象へのアプローチ

プリントの一问一问を生徒に割り振る

→「できた?」「教えて!」生徒同士の教え合い



書かなければいけない状況が生じた

## 行動へのアプローチ

問題の答えをプリントと黒板に書く

→「〇〇書こうよ!」生徒同士が声をかけ合う

→教師に質問して正答が分かり、黒板に書く

## 結果へのアプローチ

正答し、賞賛され笑顔。→その後も継続している

# 行動を「具体的に誉めて」伸ばす

誉めるタイミング，誉める言葉，誉め方，回数，場面，複数の誉める人 等の工夫

例：今、〇回できたね。この塗り方が上手だね。この問題が解けたんだあ、すごいなあ。きれいにしてくれてありがとう。・・・など



適切な行動が、現れ、維持し、般化する



適応行動＝社会で生活しやすくなる・楽しく生きる

# 「行動」を見取る＝「具体的な支援」

「行動問題」は本人が望んでしているのではない



本人も、困っている・変わりたい・楽しく生活したい

ABC分析

機能的アセスメント

- ① 予防する
- ② 予測し対応を変える
- ③ 代替行動を教える

# 参考文献(考え方編)

- 本郷一夫・長崎勤 編(2006)別冊「発達」28 特別支援教育における臨床発達心理学的アプローチ ミネルヴァ書房
- 長畑正道・小林重雄・野口幸弘・園山繁樹 編著(2000)  
行動障害の理解と援助 コレール社
- ジェームズ・E・カー, デビッド・A・ワイルダー著, 園山繁樹訳  
(2002)入門 問題行動の機能的アセスメント
- 杉山尚子(2005)行動分析学入門—ヒトと行動の思いがけない理由 集英社
- 奥田健次(2012)メリットの法則 行動分析学・実践編 集英社
- 成山治彦, 有本昌剛 編著(2012)こうすればできる高校の特別支援—実践事例に基づく必携ハンドブッカー 明治図書

# 参考文献(実践編)

小笠原恵 編著(2010)発達障害がある子の「行動問題」解決ケーススタディ  
やさしく学べる応用行動分析 中央法規出版

平澤紀子(2010)応用行動分析学から学ぶ 子ども観察力&支援力養成  
ガイド 学習研究社

月森久江(2005)教室でできる特別支援教育のアイデア172 小学校編  
(シリーズ教室で行う特別支援教育) 図書文化社

※小学校編Part2, 中学校編, 中学校・高等学校編の3冊もあります

全日本特別支援教育研究連盟 編, 佐藤慎二・漆澤恭子 責任編集(2010)  
通常学級のユニバーサルデザイン 「特別」ではない支援教育のために  
日本文化化学社

「見てわかるビジネスマナー集」編集企画プロジェクト 編著(2008)知的障害  
や自閉症の人たちのための見てわかるビジネスマナー集  
ジアース教育新社